

信浄寺だより

94号 二〇二六年一月

ひと・いのち

二〇二五年九月五日・六日両日に全日本仏教徒会議が、大阪にて開催されました。その成果として大会宣言がされました。

ひと・いのちは、まことに在りがたいもので尊ばれ慈しまれるべきものである

ひと・いのちは、自然の一部であり、その法、摂理を尊重すべきものである

ひと・いのちは、生まれれば、やがては老い、病み、死んでいくものである

ひと・いのちは、諸相の流れ、変化のなかにあり、死後もとどまることはない

ひと・いのちは、中庸と利他、融和と非戦の精神により生かされるべきである

ひと・いのちは、人知の成果である、倫理と規範により生かされるべきである

以上は、仏教徒として「たいせつなもの」は何かということを仏教精神に照らして出されたものです。この大会のテーマは「無量の『いのち』すべてのいのちを慈しむ」とされています。無量のいのちとは「無量寿」であり、浄土真宗だけではなくすべての仏教の最も大切なものです。

大会宣言を読めば誰でもその通りで、当然もらえるものだと考えると思いますが、今世界を見まわせば、そうはなっていないことが多いのではないのでしょうか。いのちの重さをそれぞれが勝手な解釈で決めてしまっている。自分に都合の悪い相手の命は軽く扱っている。そんな気がしてなりません。

仏教では、すべての人の命、人間だけではなく、他の動物の命も、またもつと突き詰めれば、植物も同等の価値があると考えます。但し、その命をいただかなければ生きていけない私だったのです。ですから少しでも命を粗末にしないこと。それが示されているのが、「食前のことば」です。

「多くのいのちとみなさまのおかげによりこのご馳走をめぐ

まれました」ということばですが、以前は、「み仏とみなさまのおかげによりこのご馳走をめぐまれました」ということばでした。多くの命はみ仏のいのち。すべての衆生（生きとし生けるもの）は、やがては仏となっていく身。そんな意味です。ほかの生き物のいのちを同様に考えるのは難しいかもしれません。しかしせめて同じ人間のいのちはどうかということをまず考えてみましょう。

全日本仏教徒大会に合わせて世界仏教徒連盟の執行役員会議も開かれました。また仏教だけではなく、諸宗教対話フォーラム「未来社会における宗教の役割」も開かれ、キリスト教、イスラム教、神道の方々も参加されました。テーマは「すべての『いのち』を慈しむ」です。他の宗教でも慈悲の心、平和を求める心が大切にされた意見が出されました。司会をされた釈徹宗氏は、最後に「どの宗教でも、人間の過剰な欲望への視点を持っていることは確かです。宗教だからこそ提示できる視点があることを私は信じています。」と述べられました。宗教の大切さをもう一度考えてみませんか。

信浄寺行事予定

元旦会 一月一日 午前九時 （信浄寺本堂）

一年の始まりは、お寺への参拝から

朝九時だけではなく、いつでも参拝いただけます。

二〇二六年は四月十二日に「花まつり」九月二十日に「落語会」を計画しています。大人も子供もだれでも参加できるようにと考えています。役員さんたちと内容を検討中です。詳しく決まりましたら、お知らせします。

本願寺御正忌報恩講

一月九日から十六日まで

岐阜別院彼岸会法要

三月十九日から二十一日

是非、ご参拝ください。